

音楽のおくりもの **information**

Spire_M

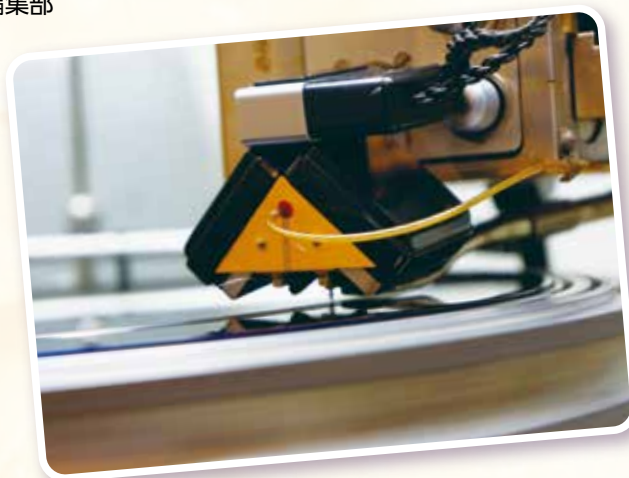
P.2 うたの潮流

第1回 滝 廉太郎

唱歌・童謡研究家 竹村 忠孝

P.8 レコードの楽しさを探る

編集部



P.12 教育出版 ホームページが 新しくなりました。

2016年4月
リニューアル!



教育出版

うたの潮流

作家の足跡と
ともに辿る
日本のうた

第1回 滝 廉太郎 [1879-1903]

日本の自然や四季，文化，日本語のもつ美しさを味わうことのできる歌曲は，源流に遡ると明治時代の滝廉太郎にはじまり，岡野貞一，山田耕筰，中田喜直と受け継がれた。作家の足跡や人脈，曲が生まれた背景などを探りながら，日本のうたの流れを辿る。

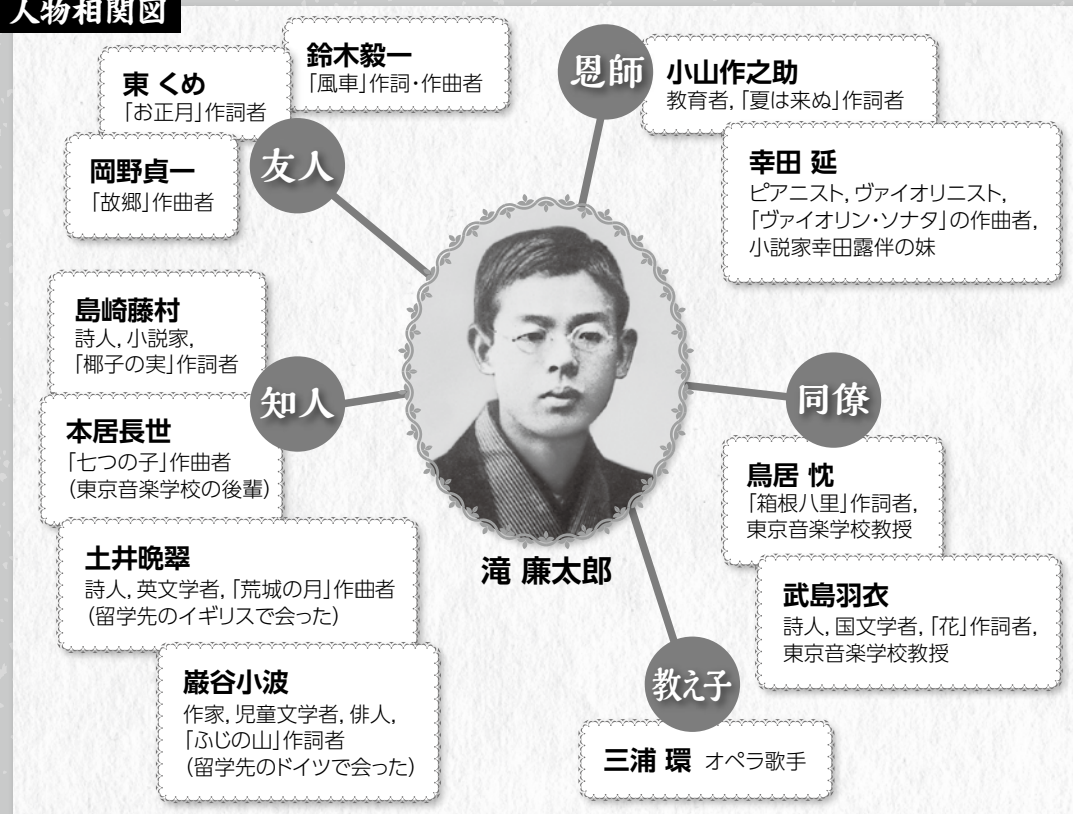
関東学院大学・法政大学講師
唱歌・童謡研究家

竹村 忠孝

index

1. 滝廉太郎の生涯
2. 唱歌について
3. 日本歌曲への思い
4. 「箱根八里」ゆかりの宿「きのくにや」
5. 廉太郎の曲に伴奏・編曲をする山田耕筰
6. 対訳「花」「荒城の月」

人物相関図



写真提供：大分県竹田市／瀧廉太郎記念館

1. 滝廉太郎の生涯

滝廉太郎は明治12年東京で生まれた。姉二人の8人兄弟の長男。滝家は大分日出（ひじ）藩であったが、明治7年、一家は上京し父親は大久保利通の秘書となる。大久保利通暗殺後、伊藤博文の知遇を得たがすぐに神奈川県書記官を務めた。廉太郎3歳の時に横浜に住み、一番新しい西洋様式にふれていた。7歳の時に父は富山県書記官を4年ほど務めた。9歳の時に官職を退職し、再び東京へ住んだ。姉二人は箏の他にヴァイオリン、アコーディオンを習っていた。明治23年、11歳の時に一番上の姉利恵（りえ）が他界、祖母ミチも同じ年に亡くなっている。12歳で大分へ戻り13歳で大分県竹田に住んだ。明治27年日清戦争の時に、15歳で上京し、従兄弟である大吉の家に住み東京音楽学校（現東京藝術大学）に入学した。ラファエル・フォン・ケーベル*が来朝した時期でもある。ケーベルは後に東京音楽学校講師になっている。明治32年20歳の時、一年後輩の鈴木毅一とともに巖谷小波に会う。

言文一致運動、「幼稚園唱歌」準備段階。明治33年、組歌「四季」や中学唱歌「荒城の月」「箱根八里」、ピアノ曲「メヌエット」を作曲し、22歳の明治34年にドイツ留学が決まり、6月ライブツィヒに到着、10月王立ライブツィヒ音楽院に合格、その束の間、肺を患って11月25日に入院した。23歳の明治35年7月10日、帰国命令が出た二週間後の7月24日、イギリスのテムズ埠頭で土井晩翠の見舞いを受けている。10月に無念の帰国をし大吉の家に着くが、11月に大吉が脳溢血で倒れたため、翌年に大分へ帰った。2月に「憾（うらみ）」作曲。亡くなったのは日露戦争前の明治36年だった。

※ ロシア出身の哲学者、音楽家

2. 唱歌について

列強が迫る中、中央集権国家を創り出す必要があった明治政府は、欧米諸国に負けない、富国強兵、殖産興業、文明開化の政策を進めた。その一環として唱歌教育が導入され、歌を通じて国民を一つの方向にまとめようとする流れがあったようである。

音楽教育では、江戸時代まで使われていた五音階に別れを告げ、西洋の七音階を使用。西欧の曲に日本語の詩をつけ、唱歌を創作する。この動きに合わせ、箏や三味線、尺八、長唄、わらべうたなど、日本の伝統的な音楽文化も排除された。唱歌の変遷は、立身出世思想を含んだ唱歌「仰げば尊し」が明治17年に発表され、続いて、五倫五常や花鳥風月など、いわゆる「徳性の涵養、情操の陶冶を目的とする教科目」、そして言文一致による唱歌実践があり、明治20年代には、日清戦争による武勇伝的・叙事詩的な軍歌が登場し、明治末までには、唱歌が国民の間に定着したようである。

相互に混ざり合っているが、「尋常小学唱歌」を類型化すると次のように大別できる。

① 立身出世を歌ったもの	「仰げば尊し」「鯉のぼり」など
② 日本の自然を歌ったもの	「紅葉」「朧月夜」「春が小川」など
③ 日本の祝日、大祭日、祭事や暮らしを歌ったもの	「一月一日」「村祭り」など
④ 日本の象徴を歌ったもの	「富士の山」「日の丸」など
⑤ 民話や昔話を歌ったもの	「因幡の白兔」「桃太郎」「一寸法師」など
⑥ 明治に入ってから文明を歌にしたもの	「汽車」「鉄道唱歌」など
⑦ 古来の武将の合戦や武勇を歌にしたもの	「鎌倉」「川中島」など
⑧ 明治に入ってから戦の武勇伝的なものを歌にした、後に軍歌といったもの	「水師營の会見」「雪の進軍」など

これらの唱歌は、尋常小学校の唱歌教育から発信され、時代や地域、職域を超え、共同体体験として共同体の形成に不可欠となった。

3. 日本歌曲への思い

西欧の曲に日本の詩をつけた唱歌、また、軍歌的な唱歌などに対して、廉太郎は、明治33年8月にこのようなことを述べている。

近來音楽は、著しき進歩発達をなし、歌曲の作世に顕（あら）はれたるもの少しとせず。然れども、是等多くは通常音楽の普及伝播を旨とせる学校唱歌にして、之より程度の高きものは極めて少し、其稍高尚なるものに至りては、皆西洋の歌曲を採り、之が歌詞に代ふるに我歌詞を以てし、單に字句の数を割当るに止まるが故に、多くは原曲の妙味を害（そこな）ふに至る。中には頗（すこぶ）る其原曲の声調に合へるものなきにしもあらずと雖（いえ）も、素より変則の仕方なれば、これを以て完美したりと称し難き事は何人も承知する所なり。余や敢（あえ）て其欠を補ふの任に当るに足らずと雖（いえ）も、常に此事（このこと）を遺憾とするが故に、これ迄研究せし結果、即我歌詞に基きて作曲したるもの、内、二三を公にし、以て此道に資する所あらんとす。幸に先輩識者の是正を賜はるあらば、余の幸榮之に過ぎざるなり。

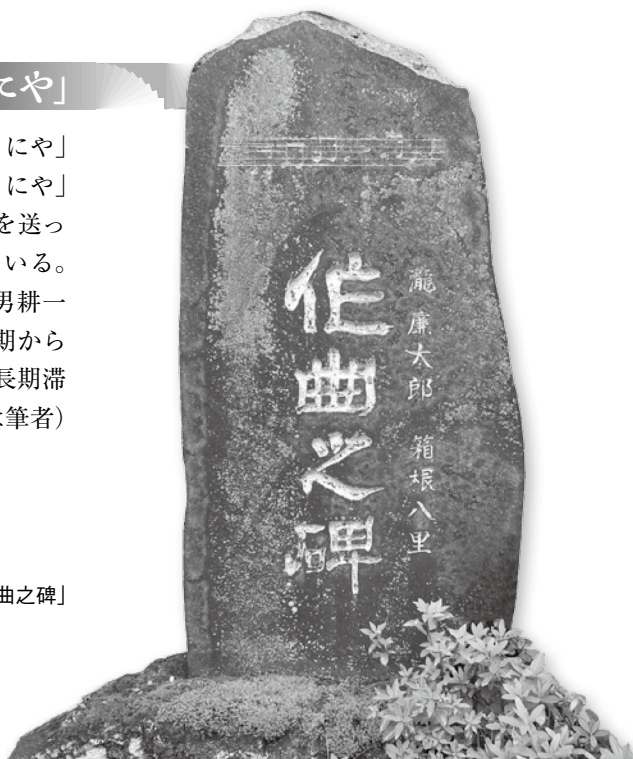
明治33年8月
瀧廉太郎

最近の音楽は著しく進歩発達をし、歌曲の作世も少しながら作られた。しかしそれなどの多くは音楽の普及目的としたところによる学校唱歌であって、通常音楽での程度の高いものは少ない。その中でも大変に少ない程度の高いものは、西洋の歌曲からの譜を採って、西洋の歌詞に代えて日本の歌詞をつけたものであり、單に字句を当てはめたにすぎないために、多くの曲は原曲の妙味を損なっている。中には非常に原曲の声調と合った歌詞がついた曲もあるが、それは元々は一時しのぎの仕方であって、これを完美したものだと称賛するとは言い難いことは多くの人は承知している。私は、あえてその欠けているところを補おうとしてもその任務には力不足ではあるといっても、常にこのことを残念に思っていたので、これまでの研究をした結果、すぐに私（我が国）の歌詞に基づいて作曲したもののうち、二つ三つを発表して、日本の歌曲の道に役立てて切り開いて貰おうと思う。幸いに先輩や見識のある人達が不具合を直してくだされば、我が国の音楽の繁榮はこれに越したことはない。

4. 「箱根八里」ゆかりの宿「きのくにや」

「箱根八里」ゆかりの宿として、箱根芦之湯の「きのくにや」がある。「箱根八里」は、廉太郎がドイツ留学前「きのくにや」滞在中に作曲したもので、晩年はこの旅館で療養生活を送った。本館正面入り口には「作曲之碑」が建立されている。その廉太郎に影響を受けた山田耕筰（山田耕筰の長男耕一〈後に耕嗣〉氏の証言：聞き取りは筆者）は、大正末期から昭和10年代まで、廉太郎が滞在したこの旅館に度々長期滞在（山田耕筰の次女日沙（ひさ）氏の証言：聞き取りは筆者）し、作曲活動を行っている。

「きのくにや」の入り口にある「箱根八里 作曲之碑」





学生服の第1ボタンだけを留める着こなしは、廉太郎が発案し音楽学校中で流行したといわれている。



川辺家の家族写真

後列 左：廉太郎、中央：「きのくにや」九代目館主 川辺儀三郎、
右：土屋元作（大阪朝日新聞社主）

廉太郎の従兄弟である元作は、その後、川辺家と姻戚関係をもつ。

写真提供・撮影協力：川辺ハルト（「きのくにや」十二代目館主）

5. 廉太郎の曲に伴奏・編曲をする山田耕筈

山田耕筈は、廉太郎についてこのように述べている。

よき歌は常に残る。生まれながら気品を保ちつつもなお今日まで愛唱さるる名曲は、「荒城の月」である。更に彼の遺作数曲を知るに及んで、彼こそは吾が国最初の作曲者である。瀧廉太郎逝きて既に25年、若くしてゆきしこの不遇なる天才を追慕するの情切なるをまかせて、彼の名が忘却の深淵（しんえん）に陥らざるよう希うものである。

昭和3年4月21日

山田耕筈

耕筈が、「箱根八里」や「荒城の月」に伴奏をつけたり編曲したりしていることは周知の事実であろう。「箱根八里」は、オペラ歌手藤原義江の帰朝演奏会において、「箱根の山」のタイトルで発表している。また、「荒城の月」については、耕筈の長男耕一氏から筆者がこんなことを聞いたことがある。

父が「荒城の月」を特に外国で聴かせる時に、滝廉太郎の原曲の「はなのえん」の「え」に井がついて短音階の第4音が半音上がっていると日本の旋律を損ないハンガリー民謡で聴きとってしまう。原曲で歌うことがあった三浦環も外国人の前で歌うことが多く違和感を感じていたため、日本の曲を披露するために井を除いたようだ。

荒城の月

土井晩翠

一 春高樓の花の宴

めぐる盃影さして
千代の松が枝わけ出でし
むかしの光今いずこ

一 春の夜、高く構えた城壁の中で盛んに花見が行われ、

酒を酌み交わし、手に手に注ぎあっている盃に月の光はさしている。
古（いにしえ）の頃からの松木の枝の合間からさし込んでいる。
栄華を映していた月の光は今どこにいったのであろう。

二 秋陣営の霜の色

鳴き行く雁の数見せて
植うるつるぎに照りそいし
むかしの光今いずこ

二 秋の夜、戦いに備えた陣営は霜の降りる情景の中にある。

空には鳴きながら通り過ぎていく雁の群れに月の光があたり、多くの数の雁が見える。
お城のまわりの土に林のように立ち並んだ剣の刃にも月の光はそつと静かに照り注いでいる。
その姿を写した月の光は今どこにいったのであろう。

三 今荒城の夜半の月

変わらぬ光たがためぞ
垣に残るはただかずら
松に歌うはただあらし

三 今となつては、荒れ果ててしまったお城に照る夜更けの月は、

昔と全く変わっていない光であっても、昔と同じ気配は何もなく誰もいない。
ただ残っているのは石垣に蔓（つる）草が生い茂り、
古い松の枝が何か歌っているような声に聞こえるのも、単なる風が吹きまくっているだけのことである。

四 天上影は変わらねど

栄枯は移る世の姿
写さんとしてか今もなお
ああ荒城の夜半の月

四 夜空の上から照る月の光の移りゆきは全く変わらないのに、

栄えたり滅びたりする人の世の姿は移り変わる、それは世の中のありさまである。
こうした世の移り変わりの変化を月の光は変わらずに今も写しているのであるのか。
ああ、荒れたお城に月の光は夜更けになっても変わりなく照り注いでいる。

高樓…高くそびえ立つ建物。

影…古語では光のこと。

千代の松が枝…千代は千年あるいは長い年月。長い年月を生きた松の枝。

天上…空の上。

花

武島羽衣

一 春のうららの隅田川
のぼりくだりの船人が
櫂のしずくも花と散る
ながめを何にたとうべき

二 見ずやあけぼの露浴びて
われにも言う桜木を
見ずや夕ぐれ手をのべて
われさしまねく青柳を

三 錦おりなす長堤に
くるればのぼるおぼろ月
げに一刻も千金の
ながめを何にたとうべき

JASRAC 出 1608045-601

一 「うららかな昼の春の川」
日の光が明るくのどかな春の隅田川。
上ったり下ったりしている船を漕ぐ人たち。
その船の櫂が掻き分けた時のしずくが、花びらのように散っている。
その眺めの素晴らしさをどのようににたとえたらいいであろうか。

二 「夜明けと夕暮れの春の川岸」
ごらんなさい、夜が明けようとしている頃に朝露を浴びて、
私たちに、何か語りかけているような桜の木をごらんなさい。
夕暮れに手をのばして私たちを、
さし招いているような青々と茂った柳を。

三 「春の宵」
花や柳で、いろいろな模様を織ったように見える長く続く土手に、
夕暮れになってくると、月がのぼり、霞んだ月がほんのりとみえる。
その眺めはまことに素晴らしく、
このひとときも千金にもかえがたい値打ちがある。
その眺めをどのようににたとえたらいいであろうか。

櫂…船を進めるための長い棒状のもの。
げに…本当に。実に。まことに。
一刻…わずかな時間（数字で換算すると一刻は二時間）。
千金…大変に価値の高いこと。

次回予告

※都合により、内容を
一部変更する場合があります。

第2回 岡野貞一

- ◎エドワード・ガントレット夫妻に影響を大きく受けた岡野貞一
- ◎エドワード・ガントレット夫妻に育てられる山田耕作
- ◎東京音楽学校と本郷中央教会



音

音楽鑑賞といえば、現在はCDやMP3ファイルなど、デジタル音源が主流です。最近ではハイレゾ（高解像度）音源が普及し、高音質な音楽データを、インターネットを使って手軽にダウンロードすることも可能になり、ますます便利になってきました。

その一方で、レコードやカセットテープなど、アナログ音源のよさ、楽しさも見直されてきています。その楽しさとは、デジタルとは違ったアナログ特有の風合いを持つ音であったり、ラジカセなど再生機器のレトロ（筆者の年代の場合。若者にとっては斬新？）なデザインであったりしますが、それらの様々な面が再発見されていると聞きます。筆者の場合は、カセットテープの出し入れやボタン操作、レコード盤の掃除、針圧の調整など、機器の操作も大きな楽しみの一つでした（賛否あり？これが煩わしいという方もいらっしゃると思います）。

前号「Spire_M 2016年春号」では「楽しいスピーカークラフトのススメ」という記事で、オーディオの音の出口であるスピーカーについて取り上げましたので、今回は音の入口である音源、それも最近復活の兆しのあるアナログレコードを取り上げたいと思っていました。そんな折、あるレコード会社さんから「レコードのカッティングマシンを見学できますよ」と、お誘いをいただきました。カッティングマシンとは何でも、レコードのもとになるラッカー盤に音の溝を刻む機械だとか…。機械好きの筆者は「是非見せてください」と即答、取材させていただくことになりました。

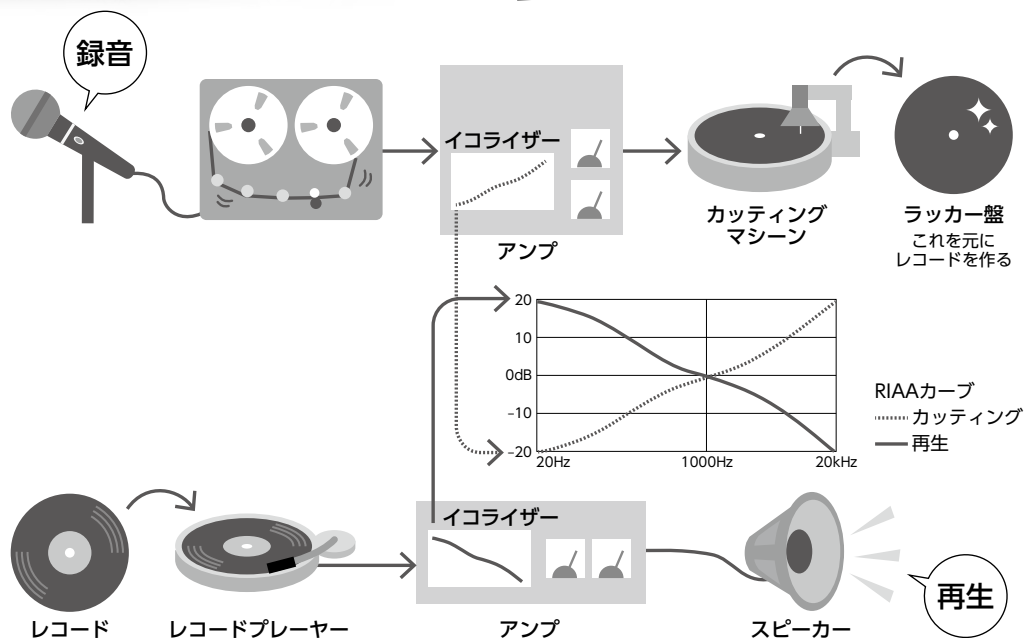
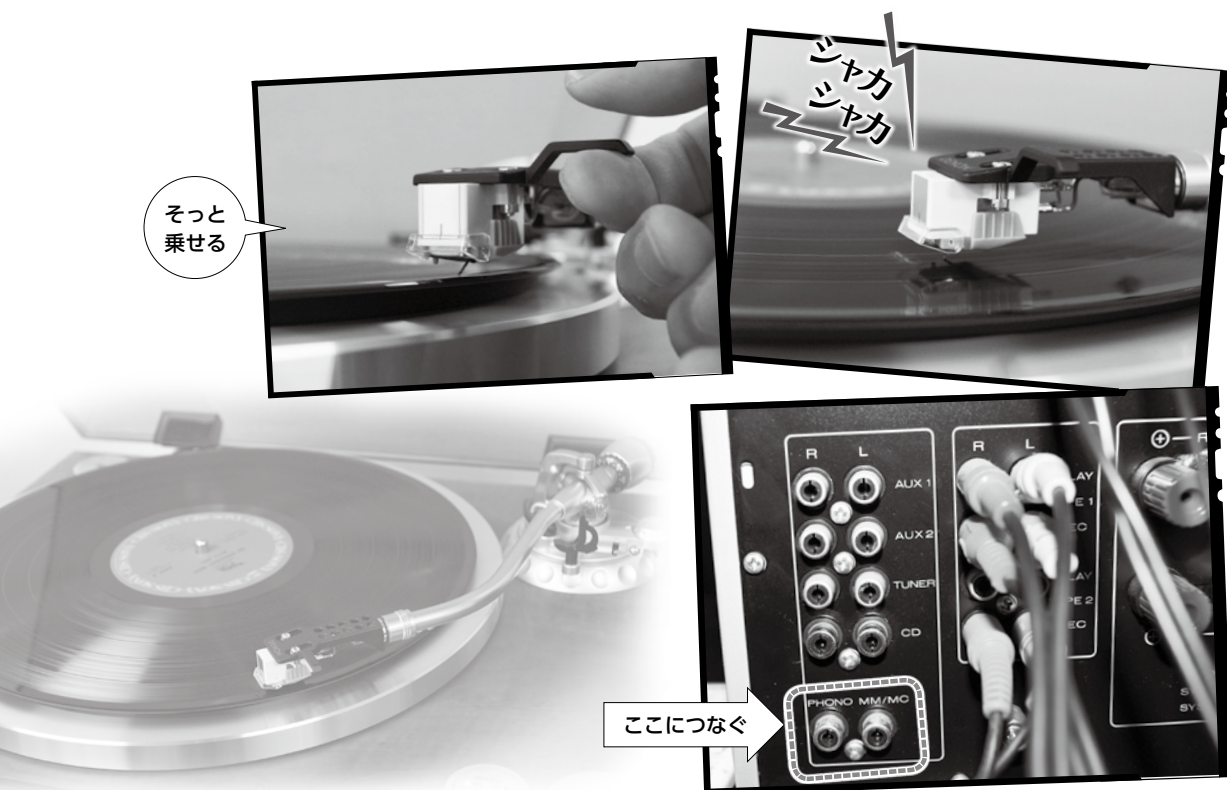
筆者の自宅ではレコードプレーヤーが故障し、レコードが聴けなくなってから20年以上が経過していますので、ここでレコードがどんなものだったか、ちょっと思い出してみましょう。なお、ここでは1950年代以降に主流であったポリ塩化ビニル製のレコード（バイナルと呼ばれているそうです）についてを取り上げています。

レ

レコードをプレーヤーのターンテーブルに置き回転をスタート、トーンアームに取り付けられたカートリッジの針先を、レコードの一番外側にある溝にそっと乗せることによって再生を開始します。すると、スピーカーから音を出さなくても、針などが振動する音が「シャカシャカ」とかすかに聞こえてきます。そう、レコードは音の振動が、そのままレコードの盤面に溝で記録されているのです。その針の振動を、電気信号に変換するのはカートリッジの役目です。針の振動をカートリッジが電気信号に変換、アンプに送り、アンプがさらに大きな電気信号に増幅してスピーカーを鳴らします。

ここで注意したいのは、カートリッジの信号（レコードプレーヤーからの出力）を、そのままアンプの外部入力端子（AUX）につないでも、十分な音量、音質で再生できないということです。これは、カー

トリッジの電気信号が微弱なことから、レコードがカッティング（詳細は次のページを参照）の工程で RIAA カーブと呼ばれる規格のイコライザーを通し、低音は弱く、高音は強く記録されているため、再生するときは、カッティングとは逆の特性のイコライザーを通して、音をもとの状態に復元する必要があります。そのためにはアンプの PHONO 端子につなぐか、PHONO イコライザーを経由させてからアンプの外部入力端子（AUX）につなぐ必要があります。



さて、今回見学させていただくカッティングマシンは、日本コロムビア（株）さんの社内で今も現役で活躍中のものですが、日本で稼働しているカッティングマシンは、こちらを含めて数台しかないのだそうです。もう生産されていないので、メンテナンスしながら大切に使用されているとのこと。このマシンで、ラッカー盤に音の溝を刻みますが、一般に販売されるレコード盤の音の良し悪しは、この溝の出来栄えにも大きくかかっています。カッティングは、レコードの特性やレコーディングを知り尽くした技術者の職人技によって成立しますが、日本には、その技術者は数人ほどしかいらっしゃいません。今回は幸運なことに、その技術者によるカッティングの実演を見せていただくことができました。



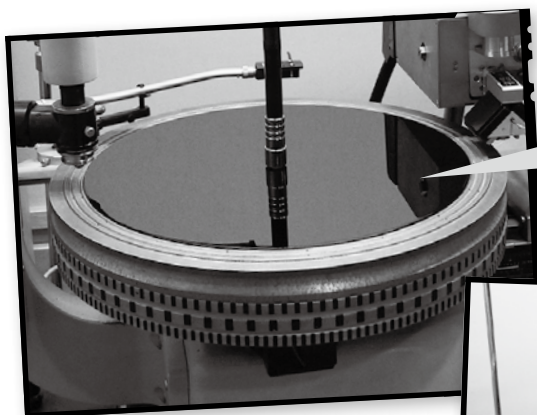
これがカッティングマシン。左側にヘリウムガスのボンベが見えるが、これはカッティング中に高音になるカッターを冷却するために使われる。

カッティング前のラッカー盤。表面には光沢がある。アルミニウム盤にラッカーが塗ってあるが、製造には高い技術が必要。写真は長野県にあるパブリックレコード社製で、その品質は世界一。



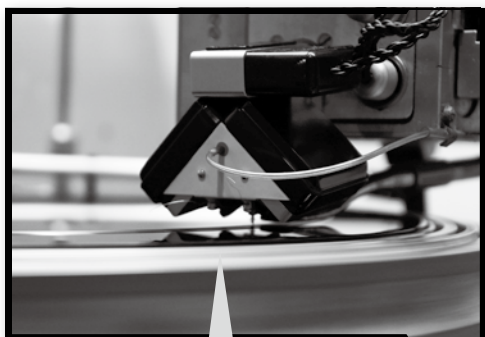
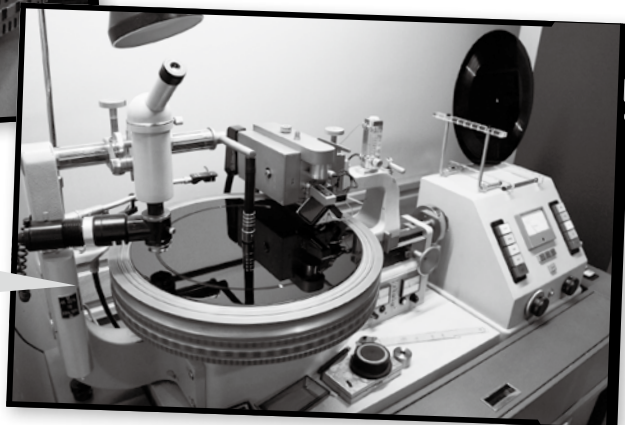
カッティングの音源テープに合わせて、再生機器の調整をするエンジニアの武沢さん。レコーディング・カッティングを“知り尽くした男”





ラッカー盤をターンテーブルにセットした状態。ターンテーブルの上にある無数の穴から掃除機のように空気が吸い込まれ、ラッカー盤が固定される。

いよいよカッティング開始。カッターによりラッカー盤に溝が記されていく。



これがカッターのヘッド。カッティングには大きな力が必要で、専用のアンプにより最大 550W+550W のハイパワーで駆動される。



カッティング終了後、音の溝の状態を顕微鏡で確認する武沢さん。写真をお見せできないのが残念ですが、拡大した溝は、それは美しい姿をしていました。

カ

ッティングが終わると早速、出来立てホヤホヤのラッカー盤を試聴させていただきました。筆者もCDを持っている有名なバンドの演奏でしたが、楽器やボーカルなど、各パートの音の一つ一つがリアルで躍動感があり、それぞれがエネルギッシュなままで同時に存在していました。CDの音と比べ、このラッカー盤には思いきりエネルギーを詰め込んであるような感じがしました。カッティングを実演してくださったエンジニアの武沢さんが「先日見学に来た学生が『デジタルにはない音！レコードプレーヤーを買います！』と言ってたんですよ」と嬉しそうに話されていましたが、この音を聴けば納得です。レコードの楽しさを、改めて実感できた体験でした。

取材協力：日本コロムビア（株） <http://columbia.jp/>

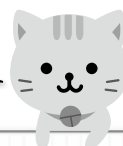
教育出版ホームページが新しくなりました。

2016年4月、教育出版ホームページが生まれ変わりました。
音楽科のサイトについてご紹介いたします。授業や研究などにお役立ていただければ幸いです。

音楽科のサイトを見るには…(中学校編)

まずは教育出版ホームページにアクセス。
<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

URLは以前と同じだニャ〜



The screenshot shows the Kyokushin Shuppan Co., Ltd. homepage. At the top, there is a navigation bar with links for '教科書・教材' (Textbooks/Materials), 'デジタル関連事業' (Digital-related business), '教育関連事業' (Education-related business), and '一般書籍' (General books). Below this, a large banner for 'デジタル教科書' (Digital textbooks) is displayed, featuring a teacher and a student. To the right of the banner, a speech bubble says '教えやすく、学びやすい授業を支援します' (We support easy-to-understand and easy-to-learn lessons). Below the banner, there are three buttons for '小学校' (Elementary School), '中学校' (Junior High School), and '高等学校' (Senior High School). The '中学校' button is highlighted with a dashed box and an arrow pointing to the 'お知らせ' (Notice) section. The 'お知らせ' section contains a list of recent news items, including '地球となかよしメッセージ' (Earth and Friendly Message) and '申請図書' (Application Library). Below the 'お知らせ' section, there is a '更新履歴' (Update History) section with a list of updates, including '小学校英語' (Elementary School English) and '小学校理科' (Elementary School Science). On the right side of the page, there is a sidebar with various banners and links, including '地球時代の教育情報誌 エデュコ' (Education Information Magazine of the Earth Era Educo), '教科通信' (Textbook Communication), '研究会 情報' (Research Association Information), 'UD ユニバーサルデザイン' (UD Universal Design), and '教材 検索' (Textbook Search). A speech bubble from the cat at the bottom right points to the sidebar, saying '右端に各種バナーが表示されています。教科通信のバックナンバーや研究会の情報は、ここから見るすることができます。' (Various banners are displayed on the right side. Back numbers of Textbook Communication and research association information can be viewed from here.)

右端に各種バナーが表示されています。
教科通信のバックナンバーや研究会の情報は、
ここから見るすることができます。



教師用指導書や
デジタル教科書
に関する情報は
ここから。

主な資料へはここからアクセス。

各内容の詳細は次のページにて⇒

学習資料・指導資料について(中学校編)

1 指導計画・評価関連資料

平成28年度版教科書の年間学習指導計画などがPDF, Word, Excelの各データ形式でダウンロードできます。



2 教師向け指導資料

「音楽を形づくっている要素(イラスト)」や「歌舞伎の舞台を真上から見た図」などがダウンロードできる素材集のページはこちらになります。

3 SOUND CELEBRITIES

金子健治先生による「リコーダー講座」と眼龍義治先生による「和楽器講座」のページです。楽器についての詳しい解説や演奏のコツなどが、豊富な写真資料や楽譜とともに丁寧に解説されています。



▲SOUND CELEBRITIES トップページ

4 教科通信「Spire_M」

音楽科の教科通信「Spire_M」の最新号がPDFにて公開されています。バックナンバーは右端のバナーからアクセスしてご覧いただけます。

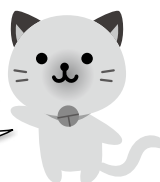


5 曲集・CDのご案内

教育出版が発行している合唱曲集(楽譜)やCDをリストアップしています。



より使いやすく, より見やすく, より充実した
WEBサイトを目ざして今後, ささまざまな企画を
展開していく予定です。どうぞお楽しみに!



※ホームページの内容は予告なく
変更される場合があります。
あらかじめご了承ください。

編集部からのお知らせとお願い

平成28年度用高等学校教科書（『音楽Ⅱ Tutti』『高校音楽Ⅱ Music View』『音楽Ⅲ』）の下記の箇所に訂正がございます。誠に恐縮ではございますが、ご指導の際にはご配慮くださいますようお願い申し上げます。

●音楽Ⅱ Tutti

ページ	行・箇所	原文	訂正文
85	左上	甘輝：吉田 ^{たまめ} 玉 女	甘輝：吉田 ^{たまお} 玉 男
85	右下	太夫：竹本住 ^{すみ た ゆう} 太夫	太夫：竹本住 ^{すみ た ゆう} 太夫

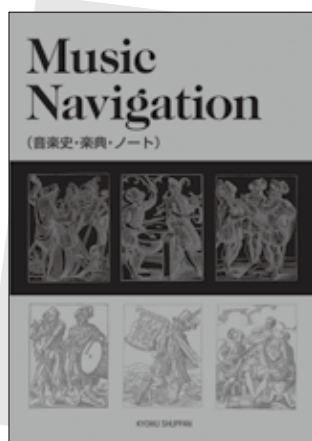
●高校音楽Ⅱ Music View

ページ	行・箇所	原文	訂正文
76	写真下	ドミートリイ・ショスタコーヴィチ（190 5 ～75 ロシア）	ドミートリイ・ショスタコーヴィチ（190 6 ～75 ロシア）
76	下1行目	190 4 年、ロシアのサンクトペテルブルクに生まれた	190 6 年、ロシアのサンクトペテルブルクに生まれた

●音楽Ⅲ

ページ	行・箇所	原文	訂正文
85	下	富田 勲（1932～）	富田 勲（1932～2016）

Music Navigation



- 1 音楽史，楽典の内容を高校教科書の内容にあわせて大幅改訂しました。
- 2 あらたに「ソルフェージュ」「スコアの読み方」「新曲視唱」を掲載しました。
- 3 オーケストラの変遷がビジュアルによって理解できます。
- 4 五線紙や鑑賞の記録，メモ帳も充実していますので，学習の記録を残すことができます。

B 5判 136ページ／別冊解答 付／本体552円＋税



第14回

地球となかよし メッセージ

作品募集 (2016年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、写真 (またはイラスト) にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に
参加賞が
もらえるよ!

応募資格	小学生・中学生 (数名のグループ単位での応募も可)
応募期間	2016年7月1日～9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。
作品 テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交流、国際理解に関すること ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

◎主催/教育出版 ◎協賛/日本環境教育学会
◎後援/環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞
※協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね
<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

教育出版

「地球となかよし」事務局 TEL 03-3238-6862 FAX 03-3238-6887
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

前回
入選作品



受け継がれる伝統と心

私は中学校で、かるた部に所属しています。私がかかる始めたのは小学校四年生の頃です。私はこのときから、かるたが好きです。理由は、男女も年齢も関係なく、平等な立場で試合に立ち向かえるからです。また、いろいろな年代の方と話したり、仲良くなったりできることも、試合をしている全員が、古くからある百人一首を一生懸命とっている姿も私のお気に入りです。百人一首が現在まで残っているのは、日本人が百人一首を大切にしてきたからだ、私は思います。なので、私も大好きな百人一首をこれから先も残していけるように、かるたを続けていきたいです。

中学・高校音楽通信 **Spire_M** (2016年 秋号) 2016年8月31日 発行

表紙写真協力: 日本コロムビア (株)

編集: 教育出版株式会社編集局 発行: 教育出版株式会社 代表者: 小林一光

印刷: 大日本印刷株式会社

発行所: 教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

03-3238-6864 (内容について)

URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>

03-3238-6901 (配送について)



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003 札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
函館営業所	〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一ビルディング 3F TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
中部支社	〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
関西支社	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
中国支社	〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
四国支社	〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
九州支社	〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-11-30 クレセント東福岡 E室 TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
沖縄営業所	〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411